

＝ 環境報告書 2015 ＝

{ I S O 推進委員会 }

1. 四日市農芸高等学校 環境理念・環境方針

環 境 理 念

私たちは科学技術の発展のおかげで、たいへん便利で快適な生活を手にすることができました。しかしその一方で、限りある地球資源の大量消費やそれに伴う環境破壊が深刻化しています。このまま放置すれば、やがて人類は自分たちの身勝手な行為により自滅する危険さえ生じてきました。

私は、三重県立四日市農芸高等学校長として、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に環境教育を導入します。生徒の環境問題への関心を高め、積極的な環境保全に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとします。

そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することをここに宣言します。

環 境 方 針

1. 三重県立四日市農芸高等学校では、校地、建物、施設等で行うすべての教育活動の中で発生する環境への影響について、配慮を行います。
2. 毎年3月、環境マネジメントシステムのレビューを行い、その継続的な改善を実施し、環境汚染の予防に努めます。
3. 国、三重県、四日市市の環境関連の法律及び条例並びに環境に関連する他の団体との同意事項を遵守します。
4. 環境負荷を低減するための目的・目標を設定し、環境への影響をコントロールする「運用管理」を実施します。また、定期的にレビューを実施します。
5. 本校は、環境方針を文書化し、実行し、維持していきます。
6. 本校は、環境方針を組織で働く、又は組織のために働くすべての人及び全校生に周知します。
7. 本校の環境方針は、学校要覧、学校案内、ホームページ等により広く校外に公開します。

2014年4月1日

三重県立四日市農芸高等学校

校 長 辻 修 一

2. マネジメントシステム永年認証表彰



長年にわたり環境マネジメントシステムの維持・改善に努めたことにより、審査機関 MSA（株式会社 マネジメントシステム評価センター）より、永年認証表彰をいただきました。



（ 2015年11月24日 校長室 ）

3. 2015 年度 環境目的・目標

No	環境目的	環境目標 (単年度)	責任者部門
1	環境教育		
	環境教育を通して、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつける	各教科・各コース等での、環境教育の実施と展開 環境週間の実施と展開 環境月間の実施と展開 地域とのコミュニケーション活動の推進 防災教育（防災訓練）の実施	■すべての部門
2	地球温暖化防止		
	① 節電を実行する	グリーン購入法に従い、節電型電球の100%利用を進める・電気使用量、前年度比3%削減に努める	■事務部門
	② 節水の啓発活動を実行する	不要な水を出さない取組のために、環境週間を設定し、全部門における啓発を実行する。	■事務部門 教職員部門
3	廃棄物の削減		
	紙使用量の減量化と分別処理による紙の再利用化を推進する	業務活動に関わる紙使用量の減量化に努めるとともに、使用後の分別処理を徹底し、紙使用量における100%リサイクル化に努める。	■事務部門

4	環境コミュニケーションの推進		
	環境意識の向上と環境コミュニケーション活動の推進	職員向け環境教育の実施 校内外への環境コミュニケーション活動の推進 環境報告書の発行	■環境委員会

4. 環境教育の取り組みについて

(1) 環境教育プログラム

◇全部門共通

環境週間	各授業	環境に関する話題に触れる	6月	全生徒
環境月間	各授業	全教員が環境教育を実施する	10～11月	全生徒
防災教育	全校	防災教育(防災訓練)を実施する	9月、12月	全生徒

◇農業学科(生産系)部門

実施(系・コース)	実施科目	教育内容	実施予定月	対象学年
生産系	農業と環境	田植え実習 (河原田小学校との交流行事)	4月	1年生 生産系
	農業と環境	水田観察 (河原田小学校との交流行事)	6月	1年生 生産系
	農業と環境	稲刈り実習 (河原田小学校との交流行事)	9月	1年生 生産系
	農業と環境	餅つき実習 (河原田小学校との交流行事)	12月	1年生 生産系
生産技術コース	野菜	環境にやさしい野菜栽培 病害虫の物理的防除と生物的防除	10月	2年
	野菜	野菜の土壌病害とその防除	10月	3年
販売情報コース	総合実習	機器の省電力化、 資源節約について	6月	2年
	総合実習	機器の省電力化、 資源節約について	6月	3年
	アグリビジネス	農産物マコモタケについて みえの安心食材認定について	10月	2年
	アグリビジネス	農産物マコモタケについて みえの安心食材認定について	10月	3年
食品科学コース	総合実習	薬品の取り扱いと処理方法	5月	2年
	微生物利用	汚水処理について	1月	3年

◇農業学科(環境系)部門

実施(系・コース)	実施科目	教育内容	実施予定月	対象学年
造園技術コース	造園技術	①造園で環境をまもる①	9月	3年
	造園技術	②造園で環境をまもる②	10月	3年

造園技術コース	造園技術	③造園で環境をまもる③	1 1 月	2 年
	造園計画	④緑地環境の保全	5 月	2 年
	造園計画	⑤都市緑地計画	1 1 月	2 年
	造園計画	⑥造園の意義と役割まとめ	1 月	2 年
	緑化材料	⑦樹木と森林変遷①	5 月	2 年
	緑化材料	⑧樹木と森林変遷②	6 月	2 年
	緑化材料	⑨樹木の環境効果	7 月	2 年
	造園計画	⑩造園で学ぶ環境教育	1 月	2 年
環 境 系	環境科学 I	春の自然観察 秋の自然観察 竹林整備	5 月 1 1 月 1 月	1 年
自然環境コース	総合実習	環境調査 水生生物調査	4～7月	2 年
	総合実習	竹林整備 里山保全活動	4月～ 4月～	3 年
	課題研究	地域の里山公園整備 金小生沼沢植物群落保全活動 鈴鹿川環境調査	4～12月 6～10月 4月～	3 年 3 年 3 年
	環境科学 II	植生調査 水生生物調査	5月～	2 年
	環境科学 III	植生調査 水生生物調査	5月～	3 年
園芸科学科	農業と 環境	植物の成長と環境要素	6月～	1 年
園芸デザイン コース	フラワー デザイン	環境に配慮したデザイン	6 月	3 年
	総合実習	花卉の利用（校内装飾）	1 1 月～ 2 月	3 年

◇家庭学科部門

実 施 (系・コース)	実施科目	教 育 内 容	実施予定月	対象学年
生活文化科	生活産業基礎	(1) 地球環境を守るうえで行うこと (2) IS014001 と私たちがするべきこと ・節電、節水、ゴミの分別	4 月	1 年生
	家庭クラブ	学校周辺清掃奉仕作業	5 月	全学年

(2) 家庭との連携

- ①『学校ホームページ』を通して、生徒会の環境活動や各学科・コースで実施している環境教育・環境活動（地域交流等）を紹介。
- ②今年度より家庭学科（生活文化科）では、『四農生文のブログ』を開設、毎日の活動を紹介。

(3) 地域との連携

- ①文化祭（農芸祭）一般公開日において、生徒会環境委員会の活動。文化祭非公開日の

リユース食器の取り組みの紹介。環境系学科（自然環境・環境造園・園芸デザインコース）等を中心に環境活動の展示と体験を実施。

本校の ISO・環境活動についての取り組みをパネル展示。

②農業学科生産系

生産系 1 年生生徒と地元河原田小学校の交流授業

（水田の田植え・観察・稲刈り・餅つきを通して環境教育）の実施。

③園芸デザインコース

県庁へ草花プランターによる装飾の実施。地域女性会との園芸教室の実施。

④造園技術コース

生徒たちが講師となって、四日市・鈴鹿地区の中学校へ出前授業に出向き「中学生に造園の良さを伝え隊活動」～中学校内の樹木剪定、環境整備を実施。

⑤自然環境コース

内部地区自治会「花と緑がいっぱい街づくり」事業へ協力（団地公園の環境整備と地元交番へ寄せ植えプランターの設置。

四日市市と鈴鹿市内の湿地帯植生調査へ参加。希少植物の繁殖・調査へ参加。

国土交通省の内部川水生生物調査へ参加。希少植物ササユリの繁殖活動を実施中。

地域の植生調査、河川の水生生物調査の実施。竹林整備、里山保全活動の実施。

⑥販売情報コース

地域の方とマコモの田植え・収穫・報告会の実施。「みえの安心食材」認定の取り組み。地域交流みのりの丘マーケットの実施。プロジェクト学習による、鈴鹿市立幼稚園とのマコモ学習を実施。

⑦食品科学コース

福祉施設において環境に配慮した食品の製造・販売の交流。保育園での食育活動を実施。

⑧家庭学科・家庭クラブ（家庭学科全生徒）

学校周辺と地域の清掃奉仕活動を実施。

⑨生活福祉コース

地域女性会とのミュージック・ベルの練習・演奏を通じて自治会行事へ参加、地域交流を実施。

⑩食物経営コース

農家女性グループ「Agri ロマン四日市サルビア」のみなさんを講師に招き、郷土食の出前授業を受け地域の食文化を継承しています。

伊勢志摩サミット関連事業である、三重県民会議「国際理解・交流プログラム」により…参加国家庭料理をつくってみよう…イタリア料理の出前授業を受けました。

(4) 企業との連携

①自然環境コース

（株東産業「第 11 回環境フェア in 四日市大学」へ出展。コースの取り組み紹介と体験コーナーの補助、水生生物調査補助と企業の取り組みの協力）

②園芸デザインコース

鈴鹿サーキットと連携して、園内花壇のデザイン協力と植栽の実施。

(5) 大学等との連携

①自然環境コース

四日市大学より教官を講師に招き、「土ってなんだろう？」と「身近な水の科学」の授業。

名古屋産業大学より「里山林と草原を通して見た人間と植生の関わり」の授業を受ける。

(6) 環境週間（2015年6月1～5日）

①生徒環境委員会による、ゴミの分別状況、日常清掃の点検。

節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と校内掲示。

②教職員ひとりひとりが、「環境」や「環境デー」に触れた授業を実施。

③学校環境デーの実施（6月2日）

生徒会・生徒環境委員会主導により、地域の美化・清掃活動を毎年実施しています。

全校生徒 714 名のうち 601 名（約 8 割）の生徒と教職員が参加しました。



学校環境デー（地域の美化・清掃活動）

（7）環境月間（2015年10月28日～11月25日）

- ①生徒環境委員会では、ロードレース大会終了後の清掃確認、節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と農芸祭前に校内掲示を実施。
農芸祭期間中、農芸祭美化係・環境委員により、校内清掃、ゴミの回収・分別を実施。農芸祭終了時には、河原田地区内のゴミ拾いを行いました。
- ②農芸祭（非公開日）『食品バザーでリユース食器』ゴミ減量の取り組み



- ③11月25日、本校環境月間の最終日に、三重県環境学習情報センターより、木村京子先生に講話をいただき環境講演会を実施しました。



- ④環境月間を中心に環境教育プログラムに基づき、全職員一人一人が、環境教育を実施致しました。

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
国語	玉崎秀人	【教育内容】 国語科の授業は、教材の如何を問わず、常に右欄に✓をつけた力を養い続けている。（ただし、倫理観の問題ではない。）	●	●	●			●		●	
	西村幸子	『 自然の変化を感じとる感性を育て、言葉で表現する 』 【教育内容】 国語表現の授業の中で、俳句作りに挑戦した。中庭に出て、秋の植物、生物を探し、秋の空気、日差し、空の色などを感じさせ、言葉で表現する。季節の風物、変化を感じとり、恵まれた環境で学んでいることを学ぶ。	●		●						●
	大淵 努	『 自主自律できる思考力を付ける 』 【教育内容】 本校の生徒は社会への関心が薄く、ニュースや新聞をほとんど読まない・聞かない状態である。 この状態は国語の授業を推進する上でも非常に問題であり、国語力を上げる取り組みと同時に進めていっている取組である。 新聞の社説を写して重要な部分に線を引かせる。また、ある程度成績が取れる者は新聞の読者投稿に投稿させる。その取り組みを通じて新聞を読んだり、社会への関心を持ってもらい、その中に環境問題も含めて学習してもらうという取り組みである。				●		●		●	
	佐々木 悠	『 自分の身の周りの環境を意識すること 』 【教育内容】 古典の題材を通して、過去の日本の風景に触れ、現在との違いを認識する ①古典の有名な題材に描かれている自然環境などから環境に関することを学ぶ。 ②現在の暮らしと過去の暮らしについて考え、現在の自分の暮らしを考える。 ③意見の発表を行い、環境について同年代の考えに触れる	●	●	●			●		●	●
数学	松岡嘉典	『 環境汚染 』 【教育内容】 ・農芸祭後の大掃除からゴミ分別の重要性について、一人一人の環境意識の持ち方 ・ゴミに限らず、環境汚染が及ぼす人類への影響について						●		●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
数学	田辺 淳	<p>『 分別作業と処理方法 』</p> <p>【教育内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 空き缶について、洗ってからリサイクルや処理する。 2 空き瓶や複合物質の切り分け作業の実施 3 ゴミのコンパクト化 <p>身近なゴミの処理を通じ、社会におけるゴミ処理の在り方について考える。分別作業を通じて判断能力の向上と、ゴミを減らすための取り組みを考える</p>		●		●		●			●
	山本 絵理	<p>【教育内容】</p> <p>日本はごみの焼却数が世界有数の多い国ということにふれ、リサイクルも大切だけどごみを出さないことがまず大事ではないかという話を短時間ですがしました。またそういう話を理解するためにも%や割合を理解していることは大切としてSPIの学習内容とつなげました。。</p>					●				
社会	清水実華	<p>『生活の舞台としての気候』 『生活の様式としての文化』</p> <p>【教育内容】</p> <p>○2学期当初から11月まで、熱帯～寒帯の5気候帯を学ぶなか、気候と私たちの生活との関係、また、私たちの生活が気候に与えている影響について考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候に合わせた住環境、食文化 ・灌漑による砂漠化の進行(サヘル地域の問題、アラル海の消滅など) ・熱帯林の減少等(マングローブの減少とエビの養殖業など) <p>気候環境の変化が現在、さらに今後の生活にどのように影響していくかを考えた。</p> <p>○2学期11月以降は、人種・民族問題をとりあげ、言語・宗教等文化について理解したうえで、現在問題となっている民族紛争(IS問題・パレスティナ問題など)について考えた。</p>		●	●				●	●	
	古川 稔	<p>『 明治時代の環境問題について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>日本史Aの授業に関連して、明治時代の環境問題について講義を行った。</p> <p>富国強兵・殖産興業のローガンのもと、急速な工業化・近代化がばい煙等の公害を引き起こし、技術的に効果的な対策がとれず、示談や和解、被害者の移転という形でしか解決できなかったこと。また、その後の戦時下においても工業生産が、終戦後も復興が優先され公害は戦前から継続していたこと。さらに高度経済成長期に入りさらに公害は深刻化し、四大公害訴訟に代表される深刻な状態に堕ちてやっと環境対策が取られるようになったこと等を説明した。</p> <p>現在の中国における大気汚染についても関連付け、地球規模で考えるべき課題と認識する必要性を説いた。</p>		●			●			●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
社会	下村 尚	<p>『 カップラーメンから見る現代の諸課題 』 【教育内容】 カップラーメンの具材の産地を地図帳から調べ、日本は輸入大国だと理解させる。 カップラーメン1つを作るために必要なフードマイレージも調べ、食物自給率が39%であることを深刻にとらえさせ、もしも輸入がストップしてしまったらどうなるのかも学習した。</p> <p>フードマイレージが増えるということは、輸送の際に二酸化炭素が増加すること、養殖施設をすることによって、貴重な自然を壊していることを理解させ、環境問題に直結することを学習した。今後の日本の食のあり方、輸入に頼っているのにも関わらず、大量の食糧を廃棄していることも人類の課題として考えられるような学習をした。</p>	●	●	●	●				●	●
	野田 学	<p>『 主権者教育 』 【教育内容】一部 投票率の低下・・・関心を持ち、慎重に考慮して一票を投じる責任がある 1890 → 1946 → 1969 → 2009 → 2012衆議院 94.0 72.1 68.6 69.3 59.3 % (戦後最低) 第1回 戦後→男女平等の普通選挙 20歳代だけでは37.9%</p> <p style="text-align: center;">政治への無関心、無力感、不信感 高齢者向け政策に偏る可能性</p> <p>※オーストラリア 投票棄権は罰金刑 投票率95% 日本はどうするのか？</p>		●	●		●				●
理科	鈴木伸治	<p>『 最後までゴミに責任を持つ社会の形成 』 【教育内容】 ビデオ、NHKスペシャル『 破局回避のシナリオ 』（1992年6月放送） 第1部 大量消費社会は変えられるか。 第2部 国境は越えられるか を見て、現在の日本のゴミ管理を考えてみる。 およそ20年前より公害問題が進化して、環境問題が大きく取り上げられるようになりました。オゾンホール、ダイオキシンの発生、二酸化炭素と地球温暖化現象、放射能のゴミなどです。20年前のビデオではあるが、ほぼ毎年、このビデオを鑑賞して、20年前と現在を比較してごみの問題を考えることにしている。日本列島をゴミの島にしないために、単純なごみを捨てない運動やゴミ回収ボランティア運動ではなく、日本にもドイツのように『包装政令』を作り、「最後までゴミに責任を持つ社会」を作らないといけないという意見を持ってもらうことをめざしている。 《メモ》このビデオの内容が今でも通用することに驚く。最後までゴミに責任を持つ社会にまだ全然なっていないのですね。オイルショックを経験した日本、枯渇する資源を考えると経済効率が低くても再利用にもっと取り組まねばと考えます。 ◎実験後に出る廃棄物の分類も日常的な環境教育の1つとして重要である。</p>		●	●	●				●	●

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	I S O	意見	本質
理科	宮崎智文	<p>『リサイクル』</p> <p>【教育内容】</p> <p>「科学と人間生活」において、プラスチックの種類について授業を行った。その中で、</p> <p>① ペットボトルについて、その主成分がポリエチレンテレフタレートであることと、日常よく見かける略称PETの関連性を説明した。それに付随し、PETは再生可能であり、融解し繊維状に加工することでフリースの原料となることを説明した。</p> <p>② 生分解性プラスチックについて簡単に説明し、今後様々な生活場面で登場するかもしれないことを話した。</p>		●		●	●		●		
	川口智美	<p>『テルミット反応実験における班別活動と反応物の分別回収』</p> <p>【教育内容】</p> <p>化学反応により、酸素の授受を知ると共に、実験後に出る反応物の分別を徹底させた。実験を班別に行うので、4人で結果を予測しながら取り組むように指導した。準備や片付けについてもお互いに協力し合って実験に取り組むよう指導した。実験後に出るゴミについては、種類ごとに回収場所を設け、班で協力して分別させて回収した。また、再利用が出来る材料については、種類ごとに回収して次の実験に再利用した。器具の洗浄についても、節水に努めさせた。</p>	●	●		●	●		●		
英語	水谷悦子	<p>『共生』</p> <p>【教育内容】</p> <p>COMMET English Communication I Lesson5「Peace, the Polar Bear」を読んで、地球上の問題点に気づき、他との共生を考え、思いやりの気持ちを持てるようにする。題材は、動物園で生まれ、母グマに育児放棄されたシロクマPeaceを扱っているが、地球温暖化や環境破壊のために、動物たちが生息地を奪われていく実情を話し、自分たちが日常生活の中で出来ることを考えさせた。また、毎晩家にPeaceを連れて帰り、世話をしていた高市敦広さんの、動物に対する愛情の深さを話し、自分たちが将来親になっときの責任の重さについても触れた。</p>	●	●	●						●
	藤原寿美子	<p>『安藤百福：インスタントラーメンの父』</p> <p>【教育内容】</p> <p>安藤百福氏が日本初のインスタントラーメンを発明し、1970年代に日本で大ヒットさせた。世界中の人にも食べてほしいと思いだんぶりながらも食べられるカップ入りのラーメンを作ろうとした。ふたの開発に苦労したが、飛行機の中で出されたナッツの入れ物からひらめき、完成させた。このような安藤氏の苦労話を英語で読み、身近なものからヒントを得る発想力、何歳になってもあきらめない強い精神力などを学んだ。</p>	●	●	●	●	●	●		●	●
	津田東二	<p>『What does 3R stand for?』</p> <p>【教育内容】</p> <p>授業当初、期末考査前だったため数分で3Rについて話をしました。そしてReduce: リデュース: 減らす; Reuse: リユース: 繰り返し使うこと; Recycle: リサイクル: 再資源化の意味と発音を確認しました。</p>				●	●		●		

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
家庭	中村通子	<p>『 エコロジー素材 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>生活産業基礎の「衣生活分野」で、使用済みのペットボトルを再生した繊維について、身近な衣類になっていることを伝え、それが何かを考えさせた。</p> <p>正解は、「フリースジャンパー」。その他にも、「あったかパンツ」の中や、ほこりを取る「モップ」など。しかし、ペットボトルの加工には手間がかかるので、きちんと洗ってから分別して捨てることを伝えた。</p> <p>また、フリース素材は、ほこりの吸着が良いので古着はカットして掃除などにも利用できることを伝えた。</p> <p>その他に、「生分解性合成繊維」は廃棄・埋め立て後、土中の微生物などにより、水や炭酸ガスに完全に分解される合成繊維があることを伝えた。</p> <p>現代、ごみが大量に出ていることが問題になっているが、色々利用方法など研究されていることを理解させた。</p>				●	●			●	
	杉野仁美	<p>『 染色実習における合理的な動き方について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>化学染料(リアック染料)を使った染色の方法を学び、染色には水が不可欠であること、環境負荷を考慮して節水するためにはどのようなすすぎが良いのか、アルカリ助剤の効率的な洗い流し方を考えさせる。</p> <p>また、狭い実習室の限られた流しで21名が同時に染色するために、それぞれがどのように動くべきか、気持ちよく譲り合えるために心掛けなければならないこと、なにか、を実習を通して身に付けさせる。</p>	●	●	●	●	●	●		●	
	百々由里子	<p>『 卒業製作と環境教育 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>2年次から、作品を作っていくときには計画的に作業を進めることを意識している。特に、裁断の過程では、無駄なく布を使用するにはどうしたらよいかを考えて型紙を配置するよう継続的に声をかけている。高校生活最後の作品となる卒業製作の中でもそれらがきちんと意識できているか、実行できているか改めて授業の中で確認をした。計画通り進んでいない場合には、ファッションショーに向けてどのように計画を練り直すかなどの確認も行った。</p> <p>さらに、農芸祭でのファッションショーという学習成果発表の場に向けて、リーダーを中心に各係がそれぞれに連携を取りながら、どうしたら自分たちのイメージするステージにすることができるのかを話し合い、ウォーキング練習を行った。</p>	●	●	●		●	●			●

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
家庭	曾野亜希子	<p>『安全・安心・快適な住まい』</p> <p>【教育内容】 高齢者、障がい者や妊婦、子ども等が生活しやすい住環境について学習した。 さまざまな身体状況を理解し、家庭生活においてどのような配慮が必要なのかを考える。特に、高齢者や障がい者、妊婦の身体状況については、それぞれの身体状況で不便と感ずることや事故が起こる状況をイメージし、具体的な改善方法について考える。 今回は、特に「家具・収納」「色彩・照明、インテリア」「冷暖房」、移動に関わる段差や階段等について配慮すべき点を学習した。</p>	●	●	●				●	●	●
	佐藤貴子	<p>『生活支援技術 食事の介護』</p> <p>【教育内容】 介護サービスを必要とする利用者の食事介護の学習で、食事とは、食べる＝生命の維持のみでなく、生きている充実感、楽しみや喜び・くつろぎを周囲と共有できるコミュニケーションの場であり、生活の質（QOL）を高める大切な役割を担っていることを学び、食事介護の中で、食事の自立に向けて、心身機能と身体構造の両面を補い、安全で安楽な食事内容と食事環境を考える力を身に付ける。</p>	●			●	●	●	●	●	
	疋田美香	<p>『agriロマン四日市サルビアさんによるおせち料理実習を通して』</p> <p>【教育内容】 本校では、農業を営まれている四日市在住の女性団体（agriロマン四日市サルビア）から毎年おせち料理をご指導いただいています。このおせち料理実習では地元で採れた野菜を使用し、できるだけ食材に無駄がないように実施しています。 例えば普段は捨てるような野菜の皮を使用する、だしをとった後の昆布や鰹節は細かく刻み佃煮にしています。普段の実習時に比べて、たくさんさんの調理を行うので水や電気、洗剤も多く使用するので節電・節水に心掛けるように指導しました。 生徒の中では、初めておせち料理を作るという生徒が多く、伝統食を学び次世代につなげる良い機会になったと思います。地域のご年配の方と一緒に実習することを通して、環境問題を自分の事として考えることができる力を身に付けてほしいと思います。</p>	●		●	●	●	●	●		
	土山真未	<p>『古着のゆくえ』</p> <p>【教育内容】 ○行政回収で出した衣類は、どのように再利用・再資源化されるかを学ぶ。 ・ウエス（工業用ぞうきん） ・反毛（繊維に戻してフェルトや綿にし、自動車等に再利用される） ・国内店舗用 ・輸出用 ○行政回収に衣類を出す際の注意点を理解する。 ・ポケットの中身を確認する ・濡れた衣類はごみになるので雨の日には出さない等 ○以上の学習を通して、古着をごみではなくリサイクルで出す意義を知り、行動するよう取り組む。</p>	●	●	●	●				●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	I S O	意見	本質
家庭	細野 歩	<p>『 ごみをいかに削減するか、その大切さ 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>・調理実習室などで出るゴミ、特に生ごみは自分たちの努力で減らすことのできるゴミである。しかし、現実には食べられる箇所もゴミとして廃棄してしまう場合も多い。そのことが、環境にどのように影響するのか、また、どれだけもったいないことなのか生徒に話をした。今まず、私達ができることとして、①ゴミの分別の徹底 ②材料の無駄をなくす ③洗い物をするとき洗剤を少なく洗える様、工夫する。 が考えられることを話し、今後の実習で実践していくことを生徒全員と共有した。</p>	●	●	●	●	●	●	●	●	
農業	森下善郎	<p>『 無農薬野菜栽培 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>プランタでの野菜栽培を無農薬で行い、農薬を使用しない安心、安全な野菜作りを体験する。農薬を使用しないため、アオムシをはじめ、ヨトウ虫、アブラムシ等の害虫や、うどんこ病などの病気が発生しやすくなる。その対策として、防虫ネットの使用、忌避剤としての木酢液、食酢の散布、害虫を発見したら直接捕殺するなどを行い、無農薬栽培の苦労を知ること、安心、安全な野菜栽培の難しさを体験する。言葉では環境を語るのは簡単であるが、環境保護について自分の意見を持たせるためにはこういった体験が必要であろう。</p>								●	
	奥田 毅	<p>『 教室美化、ゴミの分別について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>農芸祭片付け大掃除の後</p> <p>・自分たちの全員の共有物である教室の環境管理について一人一人の意識の持ち方について</p> <p>・農芸祭後の大掃除に出た大量のゴミについて。またそれに関連してのゴミの分別について</p>								●	
	上田圭祐	<p>『 農業クラブ活動を通しての環境活動 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>農芸祭において、ボン菓子の配布、タマネギ苗の販売、リユース食器の片付けなどを行った。ボン菓子は古米を使い、砂糖をからめて配布した。古米を用いることで食品の無駄について考えさせた。また、タマネギ苗を栽培する際に使用したセルトレイなどの再利用や農業活動の意義についても考えた。</p> <p>また、農芸祭中にリユース食器を回収し、洗うことで、自分のものではないが洗って再利用する、I S Oの取り組みの一環としてどのようなことをしているかを学ぶ。</p>				●	●	●			
	藤川哲哉	<p>『 持続可能な開発のための教育 E S D 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>最近のゴミ問題とカラスが袋に入った生ごみを道路に運んできて車につぶさせて中身を食する光景を見て、くれぐれもゴミのポイ捨てをしないように注意喚起し、ごみの分別の徹底を促した。</p>			●		●		●		

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	上村祐奈	<p>『ごみの分別と削減について』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸祭コース展示品の解体及びごみ捨て作業にあたって、再使用するものとししないものの仕分け、発生したごみの分別を行うこと。 ・カレンダー作成にあたり、無駄に紙やインクを消費しないよう配慮すること。 				●					
	氏本敦之	<p>『校内で栽培した水菜の利用』</p> <p>【教育内容】</p> <p>食物経営コース3年生が「生物活用」の授業で2学期を通して栽培した水菜を農芸祭のコース食堂「まんぷく食堂」で提供する肉うどんに入れ、生徒や来場いただいたお客様にふるまった。</p> <p>「生物活用」では、年間を通して様々な野菜作りを行っており、今回は栽培した野菜を自分たちで消費するのではなく、農芸祭に来場していただく方に向けて提供するものとして栽培を行った。この取り組みは3回目である。昨年度の反省点を生徒に伝え、今年度も質の良い、消費者の立場に立った「商品」を栽培するという目的で、栽培管理や収穫を行った。</p> <p>また、今年度は収穫してから少し時間をおいて提供を行うため、収穫後の鮮度管理や品質保持についても理解させた。</p> <p>自分たちが栽培した野菜を提供することで、販売コストを大幅に抑えることにつながると理解させた。今年度は昨年の反省を生かし、生産量を増やし、1000食分をまかなうことができた。</p>		●	●		●	●		●	
	山口治秀	<p>『ゴミ問題について』</p> <p>【教育内容】</p> <p>普段私たちは何気なくゴミを捨てている。</p> <p>コンビニエンスストアで購入したおにぎり。もし、ラップフィルムがなければ、素手でつかんで購入はしない。ラップがあるから購入する。衛生を保つためにきわめて大切なものである。</p> <p>ただし、ラップをはがしておにぎりを食べた途端、それまで大切だったラップは突然邪魔になり、無意識のうちに捨てられる。あるいは、「もう、ゴミが…」と厄介者扱いである。</p> <p>しかし、“不必要”になったラップを捨てる際、少くも感謝の気持ちを抱くことで、ゴミ問題を自分のこととして考えたり、ゴミを出さないような生き方を考えるかもしれない。</p> <p>ゴミを捨てる際、ふと何かを考えるようにしたい。</p>		●	●		●			●	●

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	渡部浩史	<p>『 資源の有限性について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>学祭のクラス企画ではつまようじを大量に使用し、モザイクアート画を作成することで森林の現状と課題、間伐材の用途や資源の有限性などについて考え、学ぶ機会を持った。LHRなどでは以下のようなことを話し、資源の有限性を知ったうえで、今後も人と自然とが共存、共栄し続けるためにはどうしたら良いか本質を見抜き、資源を無駄にしないなど身近なことから少しずつ主体的に活動していくよう啓発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内産のつまようじは白樺や間伐材が使われることが多い。 ・間伐は木を健全に保ち、生物多様性のために欠かせない作業である。 ・資源は有限で、一つのものを長く使う『もったいない』精神はとても重要である。 ・環境のことを考えることは周囲の人たち、後世の人たち、自然を思いやることであり、全てのものに優しい心を持つことが大切である。 	●	●		●	●				●
	長屋 晃	<p>『 実験に用いた試薬品の廃棄とゴミ分別の徹底や節水への取り組み 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>1. 1学期に行った各試薬品の廃棄の仕方について再度徹底させた</p> <p>酸性の性質を含んでいるもの、アルカリ性の性質を含んでいるもの、重金属をふくんでいるもの。これらの試薬を、流し台に流してしまったり、混合させたりしまわないように、それぞれを分別して、決められたところに廃棄するようにさせた。</p> <p>2. 1学期に指導したゴミの分別について再度徹底</p> <p>実験で出た反応物や生ごみ、可燃物、ビニール類、ガラス器具の割れ物など、分別の徹底を行うことの意識付けを実験の時間内においても、しっかりと持たせている。</p> <p>3. 節水</p> <p>実験器具の洗浄などを行うとき、節水を心掛ける意識を持たせている。</p>				●	●				●

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	田中美奈子	<p>『 食品にかかわる人の資質と国際標準化機構 』</p> <p>【教育内容】 うそをついたり、ごまかしたりする人が、「この商品は、安全でおいしいですよ。」と言って売っていたものを、自分は食べるだろうか？ 消費者が安心して食品を購入するために、製造方法や表示情報に基準（食品の安全性確保を目的とした法律など）を定め、それらが適切に製造され、表示されているかをチェックする体制（遵守されているかどうかを監視する機関）が設置されている。しかし、法律で定めた基準や監視体制があっても、それを守るという行動に至っていないならば、信用されない。「決まりを守った信用される行動をとることで、信用や信頼を得ることができる」ということを再確認した。また、食品の安全性に対する消費者の関心が高まり、国際的・国内的な統一基準が順次整備され、品質の保証や製造業者の責任の明確化、監視体制の強化が進んでいる。製品の品質、仕事の進め方、管理の方法などを標準化し、品質が一定水準以上の製品を製造することを目的にした「品質管理および品質保証システムであるISO9000s」、2005年には「食品安全を目的としたマネジメントシステムISO22000s」が発行され、導入している企業も増えつつある。食品の流通についても、食糧の不足している地域へ、その国の人が安心して食べられる安全な食品を、安定して供給できるよう、考えていってほしいと話をした。</p>		●	●	●	●	●	●	●	●
	宮下 崇	<p>『 過去の環境に学ぶ 』</p> <p>【教育内容】 先生自身の体験談を通して、過去の環境について理解することで、現在の状況を把握し未来へつなげていく想像力を養った。</p>		●	●						
	深田将希	<p>『 木材端材の有効利用 』</p> <p>【教育内容】 木材加工室で実習などで発生する端材を利用して実習製品を作成した。今回は1×4材を活かして道具箱を作成した。もちろん販売もできる木工製品となった。 木材も限りある資源である。すべての材料を捨てることなく加工して物を作ることを覚えて、大量消費でいらなくなったら捨ててしまう感覚から、創意工夫して有効活用する知識、経験を学ばせた。</p>		●	●		●			●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	鎌田高行	<p>『 環境理解 』</p> <p>【教育内容】 教育活動を通じて、日常的に環境への意識を定着させた環境教育を通じて、生徒に「創造力」「行動力」「理解力」をつけることができた 植物を学ぶことが環境保全につながることを伝える</p> <p>具体的には、科目「農業と環境」の教育内容と合致している部分に加えて、本校の教育活動や目標を理解させ、意識を高める工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献を考える ・学校の機能を理解する ・意図をもって学習する ・農業の分野間連携や、社会での構成要素などを理解する 		●					●		●
	佐藤裕毅	<p>『 切り花の水揚げ 』</p> <p>【教育内容】 切り花を長く活用するために様々な技術がある。水揚げは、その代表的な技術で、水切り、水折り、焼きあげ、湯あげ、深水、逆水などの処理方法がある。 これらの物理的な処理方法以外に、化学的な処理方法に、抗菌剤、糖質、界面活性剤、STS剤、切り花栄養剤の使用等により切り花の観賞期間を延ばすことができる。水揚げ以外の技術に、切り口の処理や、使用道具、温度管理、除雄などがあり、近年はこれらの技術を総じて、切り花の「品質保持」と呼んでいる。 品質保持のためには、生産者～流通・小売～消費者まで、切り花の流通過程における各段階で適切な処理が行われることが好ましい。「湿式輸送」はこの一つで、ELFバケツなどの花バケツに切り花を入れて輸送させる方法である。切り口が常に保水されている状態で輸送させるため、品質保持に効果が大きい手法である。</p>		●				●			
	出口幸代	<p>『 草花温室の保温 』</p> <p>【教育内容】 秋も深まり、気温が低くなってきたことにより、温室の保温が必要な時期となってきたため、温室の周囲をビニールシートで覆うことにより、温室の保温を行った。ビニールシートを温室の周囲にとめていく作業を脚立にのりながら止めていく作業となる。高い場所での作業となるため、協力して支え、次の作業を考えながら行動することが必要となる。ポイラーを使用し、温室内の温度を高めるという方法もあるが、温室の周囲をビニールシートで覆うだけで保温効果は高まることを体感し、少しの取り組みでも大きな効果がある事を理解する。</p>		●		●		●		●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力			
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質	
農業	岡安壽光	<p>『 剪定枝葉の処理 』 【教育内容】 3年生の造園技術の時間に、みのりの丘で剪定した樹木の枝葉の処理について考えさせる。</p> <p>新しく買ったチップパー（枝葉の粉碎機）を使って粉碎させ粉碎前の枝葉の量と粉碎後の量の変化を確認させる。</p> <p>粉碎後の利用方法を考えさせる。（堆肥化して培養土に混ぜて利用・樹木園等に敷いて防草効果等）</p> <p>剪定後の枝葉をゴミとして取り扱うのではなく、利用することで環境への理解を深める。</p>									●	●
	金谷達也	<p>『 農芸高校のISOについて 』 『 水耕温室と環境問題 』 【教育内容】 1. ISO14001について、農芸高校の取り組みについて ① ISO14001とは、 ② 農芸高校の取り組み（環境目的・目標）の説明</p> <p>2. 水耕温室の環境問題について考えよう 生産技術コース総合実習（水耕野菜）から環境について考える。 ① 水耕温室の仕組みと水耕実習での環境問題 ② 節電・節水について ③ 野菜収穫時に出るゴミ（野菜クズ、ウレタンマット）の分別</p> <p>・ 総合実習の中で、環境と結びつけた振り返りと考える力をつける。 ・ 農芸高校が取り組んでいる、ISO14001について理解を深める。</p>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	酒井幸和	<p>『 衛生 』 【教育内容】 環境教育と食品の衛生管理プログラムにおいて一部結びつく点があり、実行させていることは ① 生徒及び施設設備の衛生管理 ② 排水及び廃棄物の衛生管理 ③ そ族昆虫の防除</p> <p>以上の事があてはまり実習、当番日に衛生管理をすることによって環境教育に結び付ける。。</p>				●		●				●
	三林真弓	<p>『 農芸祭に向けての準備 』 【教育内容】 農芸祭で草花部門として花苗の販売を行う。買い物用 持ち帰り用の箱として、多くの苗を購入される人には大きなプラスチックのトレーを使用していただき、少数の苗を購入される人には入学時に購入する実習靴の空箱を再利用した箱を利用していただいている。実習では、靴箱を半分にカットして苗を入れやすいサイズにした後、組み立てガムテープで補強し持ちやすい箱を作り、入口付近の取りやすい場所に置いた。文化祭の話とともにリユース リサイクルの話もして環境について考えるきっかけとした。</p>	●									●

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	森川 巧	<p>『 除草剤を、極力使わない野菜作り 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>1、農業と環境の圃場に於いて、春・トマト、トウモロコシ、秋・ダイコン、ブロッコリーを栽培しているが、春・夏の雑草の除草が大きな問題になっている。</p> <p>なるべく除草剤を使用せず生徒一人一人の手作業にて行うようにし、極力除草剤を使用しないようにした。</p> <p>ただ、週一回の除草では限度があるが、雑草が生えてない畑は如何に農業に頼っているかを意識させる。</p>			●			●		●	
	岩崎恵理	<p>『 ネイチャークラフト 』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内や近隣で生息する様々な樹木や植物から材料を採取し、植物の特徴を理解させる。 ・ 採取してきた自然の物を使って置物や壁飾り、葉っぱでバッタを作成した。 <p>全体的な作品のバランスや色使い、出来上がりの作品を想像しながら作業する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で集中して作品を作ることで工夫する力や、個性ある作品の発想などをおこさせる。 ・ 生徒自身が子供たちに教えることを意識しながら考えることで、自主的に行動する力になる。 		●		●		●			
	大市一範	<p>『 放置竹林の竹活用 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>森や林が調和を保ちながら人々と生活してきた場所、里山の現状を見てみると人手の加えられていない里山が増え、モウソウ竹や陰樹が雑木林を覆い繁茂している</p> <p>自然環境の授業内容でも里山については、たびたび取り上げている中で、伐採した竹の利用方法を考え、実習で竹炭作りとチップによる処理に取り組んだ</p> <p>活用することによる森林の管理が目的を持つ活動としていかされた。</p>		●	●			●		●	
	平尾岳之	<p>『 無農薬・減農薬による野菜の栽培 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>無農薬・減農薬による野菜の栽培について講義し、実際に無農薬で野菜の栽培を行った。</p> <p>ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー・レタス・ダイコンなどの栽培に際し、害虫の駆除等に農薬を一切使用せず、すべて手で駆除した。</p>		●						●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力			
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質	
農業	鳥越和成	<p>『木材端材の利用』</p> <p>【教育内容】 木材加工の実習において、少なからず端材が発生する。そのまま捨てるとただのゴミだが、新たな活用法を考えさせる一環として、コケ玉（3年生実習作品）を乗せる台座を作製させた。また、コケ玉は農芸祭等で販売予定だったため、コケ玉に合ったサイズに加工し、面取りをしたりするなど商品としての付加価値を高めた。そして端材のサイズは様々であったため、いかに日頃の実習で無駄が出ないようにするかも意識させた。</p>		●	●			●			●	
	古市 茂	<p>『観葉植物の栽培について、観葉温室の保温』</p> <p>【教育内容】 観葉植物は、亜熱帯植物なので病気は少ないが、害虫の防除について低農薬を使い散布回数も極力減らす事を指導しています。又栽培用土については、草花、野菜いの使用済用土を、オートサイドの機械を使い再生用土で観葉を栽培しています。保温については、ガラス温室では冬季に入るときにビニールを使い外張り、内貼りをして空気の層を作り保温力を増しています。又繁殖については、電熱線を使いマルチを作り少ない面積で地温を高めています。</p>						●	●	●		
	駒田早苗	<p>『エコバック推進活動』 『本校の商品についての環境問題』</p> <p>【教育内容】 ・販売所に来ていただいたお客様に、環境月間に於けるエコバック使用の活動協力を、本校生徒（販売情報コース販売当番）と一緒に、声掛けを行い、販売袋の使用量削減に、取り組んだ。 ・本校各部門から出されている本校商品が、いかに環境問題に配慮して販売されているかを理解・認識させた。</p>	●	●		●	●	●	●	●	●	●
	中山真紀	<p>『クッキーを通してゴミをできるだけなくす』</p> <p>【教育内容】 クッキーの生地作りで生地の固さにより、クッキーの量はもちろぬくずの量まで変化する。気温や湿度に応じて臨機応変に適切な生地づくりを目指す。しかし実際に固い生地や柔らかすぎる生地が量にどう変化するのかは言葉では説明しづらいので体験を通して学習する。 クッキーに使う材料は粉が多くゆっくり混ぜないとボールからあふれる。あふれないように細心の注意を払って作るように指導する。 クッキーを詰める袋にはラベルが必要になる。ラベルは1度貼ったらほとんど貼り直しがきかない上、空気が入りやすく失敗しやすい。今現在それを使わないといけないという大前提を踏まえてできるだけ失敗しないように気を付ける。また、数を多く作りすぎてもゴミになるので詰める側・貼る側がお互いにどのように動けばよいのかを効率も含めて自分で考えて行動にうつせるように指導する。そして、人の作業をみて、自分ならどうするかを聞かれたら答えられるように常に考えるように話す時間を設ける。</p>				●	●	●			●	

2015環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
養護	成川 雅	<p>『 環境に配慮した健康管理方法（冬季） 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>必要以上に暖房器具を使わず、環境にやさしい内容で、健康の自己管理をしていく方法を考え、実践していけるよう、衣服での調節や血行の良くなる姿勢及びマスク等の適切な使用方法などを保健室来室者への個別指導、保健室前掲示板を利用しての働きかけや、生徒に考えさせ作成、発行させるほけんだよりでの全校生徒への啓発を行った。</p>			●	●	●				
司書	市川祥子	<p>『 鳥獣害について 』ほか</p> <p>【教育内容】</p> <p>①今年度は「鳥獣害について考えてみよう」をテーマに、関連本を図書館内に展示した。 近年、本校にもサルが出現するなど、サル、シカ等の鳥獣害が市街地にまで及んでいる。 授業で自然に触れることの多い本校生にとって身近な話題でもあるので、本を参考に、動物の特性や動物との共存、自然環境を守るとはということかななどを学んでもらいたいと考え実施した。</p> <p>②図書委員会による図書館内清掃活動 図書委員については、1学期および3学期のクラスマッチ中に図書館清掃（書架および本の清掃）を実施して、学習環境の整備や清掃の大切さについて学んでもらった。</p>			●		●		●		

(8) 防災教育（防災訓練）の実施

①第1回防災訓練の実施（2015年9月3日）

全校避難訓練。1年生…救助袋滑降訓練。2年生…初期消火訓練。3年生…起震車訓練及び、生産技術コースと生活文化科の生徒で備蓄米(学校農場米)を使った炊き出し訓練。全校生徒及び全職員分800食を炊き出しました。



②第2回防災訓練の実施（2015年12月8日）

全校生徒及び教職員と河原田地区地域住民12名参加。

防災講話：「東日本大震災から学ぶ」

自衛隊三重地方協力本部四日市地域事務所長 小田浩次氏より、

救急法講習：「三角巾を使った包帯法」各学年別実施。

校章入り三角巾を全校生徒へ在学中貸与、常に携帯し緊急時に備えています。



5. 環境コミュニケーションの推進

(1) Mie子どもエコフェア2015に協力（2015年7月18.19日 三重県環境学習情報センター）

自然環境コースの生徒たちが、会場にてイベント運営のスタッフとして協力。

来場者 4,390名(2日間)

(主催：三重県環境学習情報センター)

(2) みえ環境フェア2015への出展（2015年12月6日 メッセウイング・みえ（津市））

三重県における地球温暖化防止対策を一層推進するため、日頃より環境保全活動を行っている県民をはじめ企業、NPO、学校、自治体の情報を発信し、来場者に対して地球温暖化の現状について啓発を行い地球温暖化防止に係る行動変容を促すと共に、出展者の交流の場として『みえから始めるエコの環』をテーマに開催されました。

本校のISOと環境教育を中心に、パネルと生徒たちの実習成果による作品展示、学校紹介を行いました。

(2010年より、6年連続出展)

また今年度は、農業クラブ・家庭クラブの生徒たちが、販売ブースにおいて実習農産物の販売と展示ブースにおいて学校案内を実施しました。



来場者 約3,500名

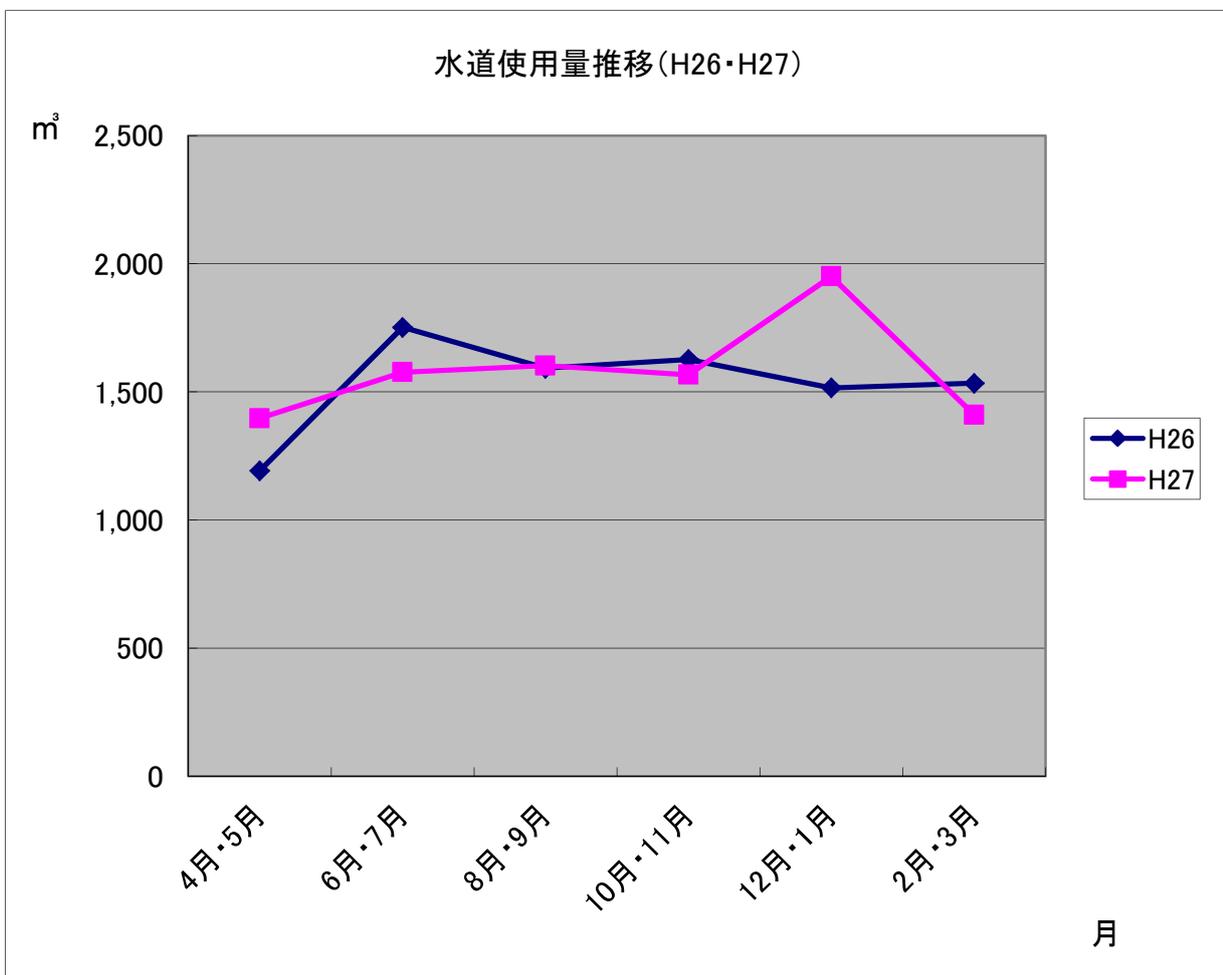
出展団体 77団体

(主催：三重県地球温暖化防止活動推進センター)

水道使用量の推移 (H26・H27)

単位: m³

	平成26年度	平成27年度	前年比
4月・5月	1,192	1,397	17.2% 増
6月・7月	1,752	1,577	-10.0% 減
8月・9月	1,593	1,603	0.6% 増
10月・11月	1,627	1,567	-3.7% 減
12月・1月	1,516	1,951	28.7% 増
2月・3月	1,534	1,411	-8.0% 減
計	9,214	9,506	3.2% 増



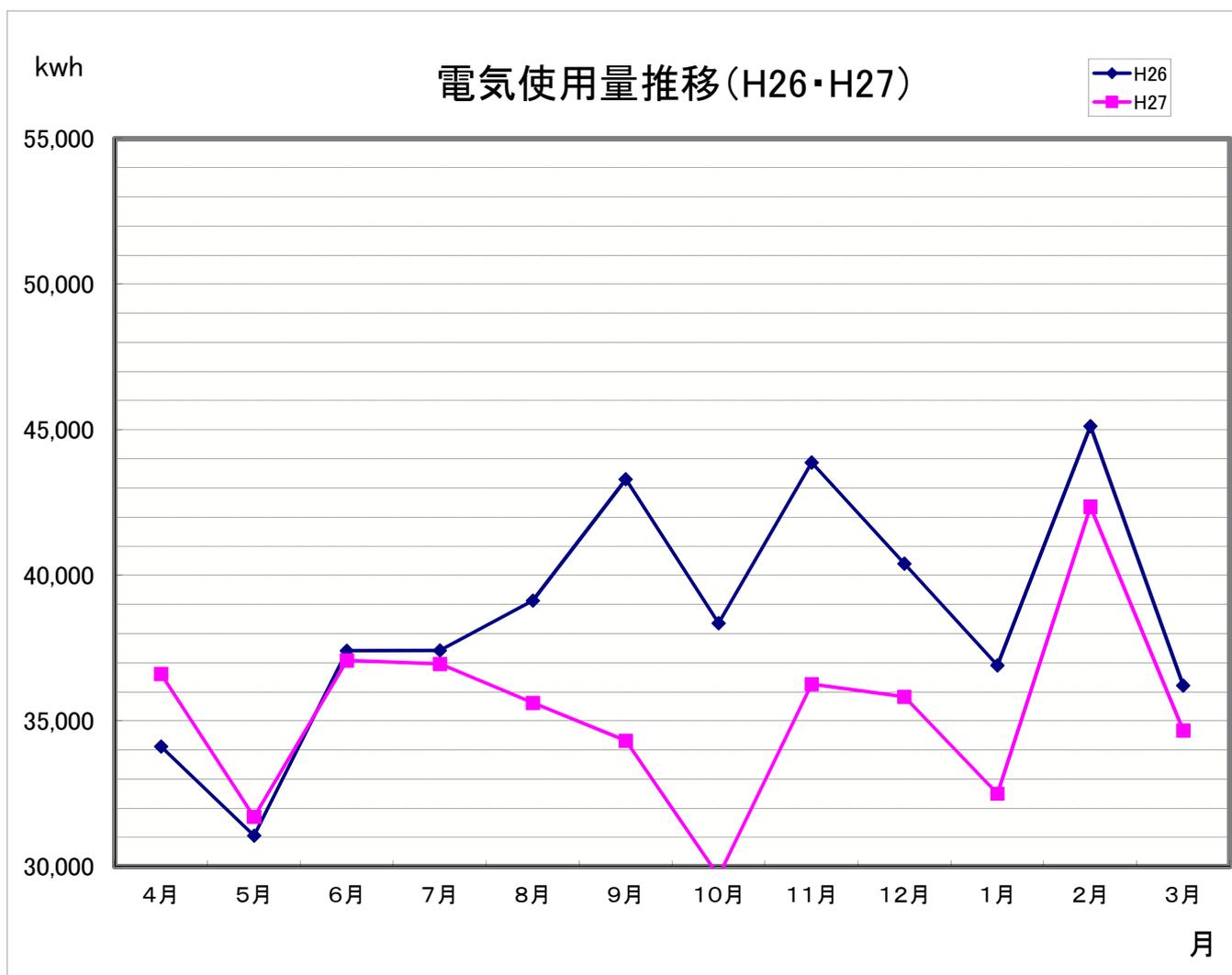
6. 地球温暖化防止の取り組みについて

電気使用量の推移(H26・H27)

平成27年度目標:前年比3%削減

単位:kwh

	平成26年度	平成27年度	前年比
4月	34,127	36,620	7.3% 増
5月	31,067	31,710	2.1% 増
6月	37,414	37,088	-0.9% 減
7月	37,427	36,961	-1.2% 減
8月	39,136	35,628	-9.0% 減
9月	43,307	34,328	-20.7% 減
10月	38,367	29,674	-22.7% 減
11月	43,883	36,273	-17.3% 減
12月	40,406	35,838	-11.3% 減
1月	36,910	32,506	-11.9% 減
2月	45,129	42,362	-6.1% 減
3月	36,222	34,682	-4.3% 減
計	463,395	423,670	-8.6% 減

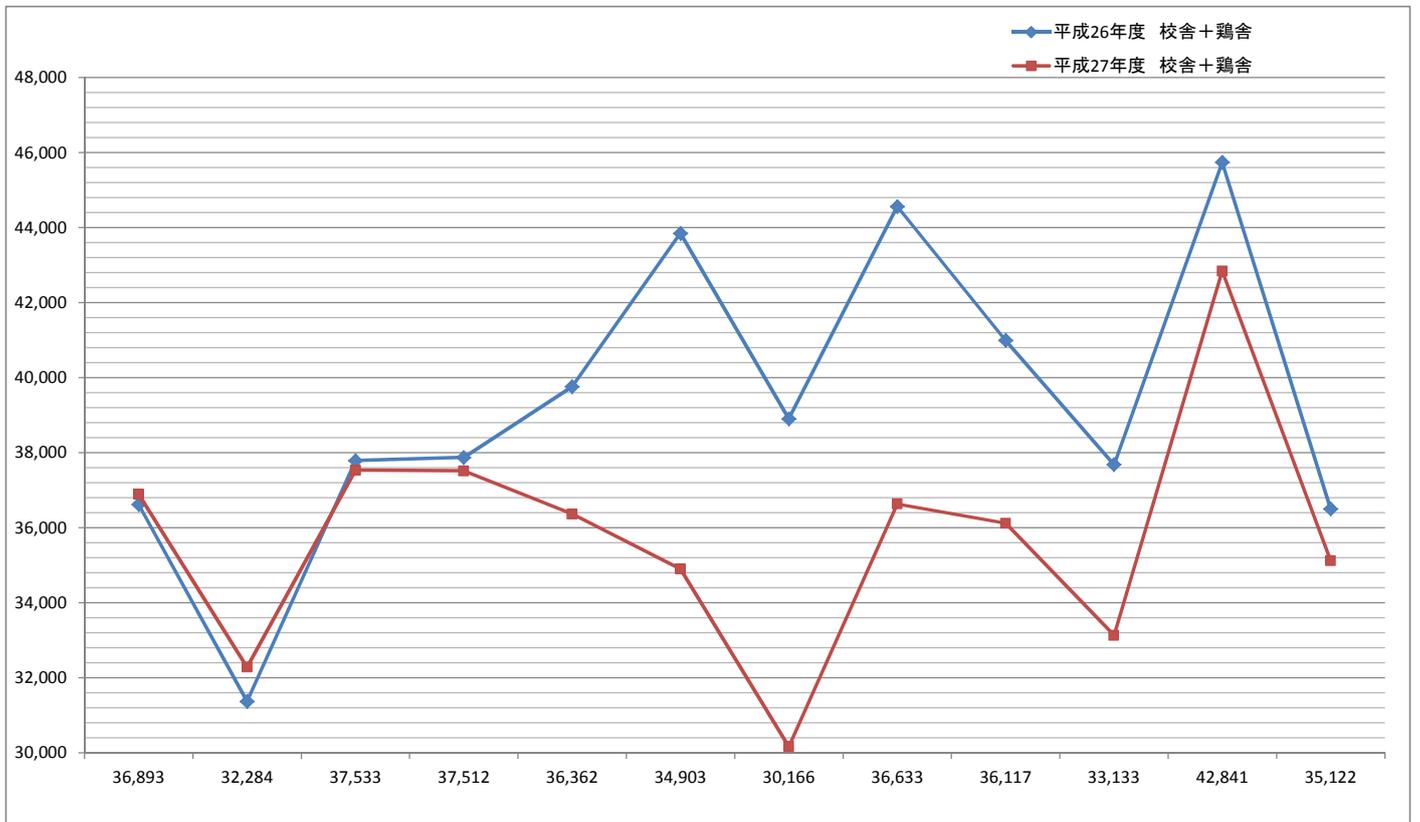


【参考】校舎+鶏舎 電気使用量の推移

単位:kwh

	平成26年度			平成27年度			【参考値】 前年比
	鶏舎		【参考値】 校舎+鶏舎	鶏舎		【参考値】 校舎+鶏舎	
	従量電灯C	低圧電力		従量電灯C	低圧電力		
4月			36,620	261	12	36,893	-
5月	275	31	31,373	476	98	32,284	2.9%
6月	353	21	37,788	436	9	37,533	-0.7%
7月	428	17	37,872	543	8	37,512	-1.0%
8月	615	12	39,763	718	16	36,362	-8.6%
9月	504	31	43,842	540	35	34,903	-20.4%
10月	471	64	38,902	400	92	30,166	-22.5%
11月	628	50	44,561	359	1	36,633	-17.8%
12月	576	7	40,989	277	2	36,117	-11.9%
1月	760	10	37,680	624	3	33,133	-12.1%
2月	601	8	45,738	476	3	42,841	-6.3%
3月	272	9	36,503	439	1	35,122	-3.8%
計	5483	260	471,631	5549	280	429,499	-8.9%

増
減
減
減
減
減
減
減
減
減
減
減



7. 2015年度 環境目的・目標の達成度一覧（まとめ）

2016年 3月 24日

No	環境目的	環境目標 (2015年度)	達成度 (年度末のまとめ)
1	環境教育 環境教育を通して、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつける	各教科・各コース等での、環境教育の実施と展開	各部門で、計画された環境教育プログラムに沿って環境教育を実施、全ての環境教育実施報告書が提出された。
		環境週間の実施と展開	6月の環境週間と10～11月の環境月間を中心に全職員で環境教育に取り組んだ。環境月間では、全職員(事務職員を除く)から環境教育実施報告書が提出された。
		環境月間の実施と展開	
		地域とのコミュニケーション活動の推進	家庭学科・農業学科の各コースを中心に地域との連携(環境教育・環境保全活動等)が実施された。
		防災教育(防災訓練)の実施	9月防災訓練:地震・火災発生を想定した避難訓練、初期消火訓練及び学校備蓄米を利用した炊き出し訓練が実施された。12月防災訓練:防災講話と救急法(三角巾包帯法)訓練を全校生徒と地域住民も参加して実施された。また全校生徒へ、三角巾の配備(5年目)を行った。
2	地球温暖化防止	① 節電を実行する	グリーン購入法に従って処理し、法規制の順守状況を監視し、記録を完了した。グリーン購入の比率は100%である。体育館、武道場、一部教室の照明設備LED化を実施した。電気使用量については、前年比8.6%の削減となり削減目標を達成した。
		② 節水の啓発活動を実行する	不要な水を出さない取組のために、環境週間を設定し、全部門における啓発を実行する
3	廃棄物の削減	紙使用量の減量化と分別処理による紙の再利用化を推進する	不要な水を出さないことの啓発活動を6月環境週間において、生徒環境委員会主導で実施した。水道使用量については、漏水により前年度比3.2%増となったが改善されつつある。無理のない範囲内での節水が実施された。
		業務活動に関わる紙使用量の減量化に努めるとともに、使用後の分別処理を徹底し、紙使用量における100%リサイクル化に努める。	紙使用量の減量化と両面使用によるリサイクル化と使用後の分別処理に努めた。
4	環境コミュニケーションの推進	環境意識の向上と環境コミュニケーション活動の推進	職員向け環境教育の実施
		職員向け環境教育の実施	4月新着者対象、3月全職員対象にISO研修を実施した。
		校外への環境コミュニケーション活動の推進	①Mieこどもエコフェア2015に協力 ②みえ環境フェア2015に出展と実習農産物の販売を行い情報発信を実施した。③文化祭(農芸祭)時に本校ISO活動の取り組みを紹介(パネル展示の実施)
	環境報告書の発行	「環境報告書2015」として、額の汗(復活第9号)へ掲載した。	

